

## 一般社団法人日本老年歯科医学会 2022年度第7回理事会次第

日時：2022年9月8日（木）17:30～20:30

Web開催

### 出席者

水口俊介、羽村章、片倉朗、上田貴之、池邊一典、小野高裕、山崎裕、會田英紀、菊谷武、戸原玄、古屋純一、吉田光由、松尾浩一郎、渡邊裕、大神浩一郎、菅野亜紀、柏崎晴彦、高橋一也、岩佐康行、平野浩彦、大野友久、田中彰、服部佳功、糸田昌隆、越野寿、枝広あや子、金澤学 各理事（27名）

山根源之 監事（1名）

### 陪席者

鈴木啓之、竜正大、堀一浩、奥村拓真、尾立光、古屋裕康、吉見佳那子、畑中幸子、高橋賢晃、日高玲奈、伊藤誠康、大久保真衣、渡邊理沙、川本章代、若杉葉子、白部麻樹、遠藤眞美、田中恭恵、貴島真佐子、豊下祥史、森下志穂 各幹事（21名）

櫻井薫、福島正義、山根 瞳 各名誉会員（3名）

古澤朝美 事務局員

### 欠席者

河相安彦、阪口英夫、弘中祥司 各理事

森戸光彦 監事

高橋利士、山添淳一、尾崎研一郎、吉岡裕雄 各幹事

### I. 開会の辞（片倉副理事長）

片倉副理事長より、ご参集いただいたことについて御礼と、活発な議論への期待とともに、開会の辞が述べられた。

### II. 理事長挨拶

水口理事長より、多くの協議事項があるが、時間を守りつつ慎重に審議を行っていくことが伝えられた。2022年7月8日にご逝去された工藤逸郎名誉会員への黙祷がささげられ、哀悼の意が表された。

物故会員

工藤逸郎 名誉会員 2022年7月8日ご逝去

### III. 議長選出（水口理事長）

定款第32条に従い、水口理事長が議長として選出された。

### IV. 確認事項（上田理事）

1. 定足数の確認〔定款第32条、理事現在数（30名）の2分の1以上の出席〕

上田常任理事（総務担当理事）より、定款第32条、理事現在数（30名）の2分の1以上の22名（開始時点）の出席があり、定足数を満たしていることが報告された。

2. 2022年度第4～6回理事会議事録

上田常任理事（総務担当理事）より、2022年度第4～6回理事会の議事録が確定したことが報告された。

## V. 協議事項／重要な報告含む

### 1. 役員選任規程の一部改正について（総務）資料p.1

上田理事（総務担当）より資料を用いて、役員選任規程の一部改正について説明された。

代議員選挙は電磁的方法を用いて選挙を実施可能となっているが、理事選挙については規程に「郵送投票」と明記されており、現状では電磁的方法を選択ができないことから、利便性の観点からも、理事選挙についても電磁的方法を用いた選挙方法を選択可能となるよう規程の文面を変更（“選挙管理委員会が定める方法（電磁的方法を含む）”と明記する）する旨が提案され、理事会にて承認された。

### 2. 定款一部改正について（総務）資料p.2

### 3. 役員改選時の定時社員総会の進行見直しについて（総務）資料p.3-4

上田理事（総務担当）より、資料を用いて定款の一部改正について説明された。

近年、定款に適切に従って学会運営（会議など）を実施することが求められている背景から、実態との齟齬を認める部分（理事の選出、理事長の選出について）があったため是正が必要であることが説明された。

定款一部改正および役員改選時の定時社員総会の進行見直しに関しては、12月の理事会にて協議予定であることが報告され、改定を進めていく方針について、本理事会にて承認された。また、定款の変更に伴い登記費用も必要となることから、規程委員会に依頼を行い、その他齟齬がある部分などないか全体的なブラッシュアップを行い、改正を一度に終わらせられるようにしていく予定であることが説明され、承認された。

水口理事長より、資料をご確認いただき問題点などあれば、メールなどで共有していただき、今後常任理事会、規程委員会等にて協議を進めていき、最終的には12月の理事会にて協議することが確認された。

〈現在の定款条文に従った場合の理事の選出、理事長の選出の流れ〉

- ①旧代議員が参加する社員総会にて、“新たに選出された理事”を承認
  - ②理事会（“新たに選出された理事”が参加する新理事会）にて、理事長を選出
  - ③新代議員が参加する社員総会にて、理事会にて選出された理事長（理事長指名の副理事長、常任理事を含む）を承認
- \*理事は総会の承認が必要であるため、新理事が就任するのは総会終了後となる。そのため、総会を2回実施する必要がある、それぞれの総会に参加する理事も代議員も一部変更となる可能性がある

〈改正予定の理事および理事長選出の流れ（案）〉

- ①総会にて新理事のみを選出する
  - ②総会を終了（ただし解散しない）
  - ③総会出席者も陪席する中で、司会（総務担当理事）の進行のもと新理事による理事会開催（この段階では理事長不在のため、出席理事の互選により理事会の議長を選出可能と定款に明記）
  - ④理事会に出席する新理事により理事長を選出
  - ⑤新理事長が副理事長と常任理事を指名し、新理事が承認
  - ⑥理事会を終了
- \*一般社団法人においては、理事長選出は社員総会でなく理事会でも実施可能  
総会の出席者も陪席する中で、理事長の選出が実施される

〈その他〉

理事会終了後にそのまま総会会場にて理事長挨拶や表彰式を実施する。

### 4. 診療参加型臨床実習マニュアル「モニター装置と心拍監視」の作成方針資料p.5-6

會田理事（教育委員会委員長）より資料を用いて、診療参加型臨床実習マニュアル「モニター装置と心拍監視」の作成方針について説明された。（タイトルは「生体情報モニタリング」に変更）

執筆を開始するに当たり、理事会終了後にメール等で、理事よりのご意見をいただきたいこと、マニュアル作成に当たり、各大学での教育状況を調査するアンケートを行うことを予定していることが説明され、承認された。

戸原理事より、歯科治療中のモニタリングに限定したもの（歯科治療に至るまでの部分が含まれるのか）

であるのかとの確認がなされ、モニター下での歯科治療ということ念頭においているとの回答がなされた。

上田総務担当理事より、学生の学習目標について、「モニターを装着できること」を目標とするのか、「データの解釈」までを目標とするのかとの確認がなされ、教育委員会においては、「モニターを装着しデータを収集できること」を目標とするとの回答がなされた。

#### **5. 2022年診療報酬改定および2024年介護報酬との同時改訂に向けたオンラインでのディスカッション形式のワークショップ開催（社会保険委員会）資料p.7**

菊谷理事（社会保険委員会委員長）より、2022年診療報酬改定および2024年介護報酬との同時改訂に向けたオンラインでのディスカッション形式のワークショップ開催について、資料を用いて説明された。

高齢者歯科診療全般について、診療報酬がカバーできているかどうかを一度確認した上で、技術提案書を提出したい旨、項目ごと（外来診療における高齢患者への対応、多職種協働における食支援、在宅歯科診療、がん・難病・看取り、医療保険と介護保険の給付調整など、歯科・歯科連携、病院歯科）に分けてワークショップを実施（9～11月）した上で、問題点を抽出したい旨が説明され、詳細は常任理事会に一任することで承認された。

上田理事（総務担当）より、予算や規模感などを常任理事会に提示していただきたい旨が依頼され、常任理事会でメール協議することとなった。

#### **6. 第34回学術大会準備状況および運営について（菊谷大会長）資料p.8-12**

菊谷理事（第34回学術大会大会長）より第34回学術大会準備状況および運営について資料を用いて説明された。

##### 1) 歯科のプログラム

- ・開催日時：6月16日午後～6月18日
- ・会場は3会場を予定していること（一般口演も開催することも検討中）
- ・認定審査等は会議室にて実施することを予定していること
- ・ポスター発表については、共同ポスター会場の一部利用を予定していること
- ・当日会費の値上げ（3000円値上げ）することとなったことが説明された。

##### 2) 合同のプログラム

- ・合同シンポジウムについては、15シンポジウムが提案されていること
- ・歯科が主に担当するシンポジウムは、合同シンポジウム7（オーラルフレイルの予防と多職種連携）となっており、平野理事に協力を依頼していること
- ・合同シンポジウム3（多職種が関わる基幹病院での高齢者医療の展開）、合同シンポジウム10（エンドオブライフの医療とケア）への協力要請を受けており、シンポジストの選出などへのご協力をお願いしたいことが説明された。

##### 3) 広報／Twitter、Facebook、カウントダウン動画、ご当地キャラクター等（広報委員会）

伊藤広報委員会幹事より、Twitter、Facebook、カウントダウン動画へのご協力の依頼がなされた。ご当地キャラクターについては、大会校からの提案があれば提案していただきたい旨が説明され、提案がない場合には広報委員会にて検討する旨が報告された。

#### **7. IAGG-AOR 2023 準備状況について（小野理事、池邊理事、松尾理事）**

小野理事（編集委員会委員長、IAGG-AOR 財務担当）より、本会としてのIAGG-AORへの協力体制について以下の通り説明がなされ、あわせて、歯科系の企業には、IAGG～老年学会総会と続けて出展していただくようにすることで、協力を仰ぐ旨、少なくとも1つはスポンサーシップシンポジウムを開催したいと考えている旨が説明された。

水口理事長より各理事に、スポンサーへの声かけにご協力をいただきたい旨が説明された。

松尾理事（渉外委員会委員長）より、IAGG-AOR 2023の準備状況およびプログラムについて説明がされた。3つのシンポジウムを企画している（オーラルフレイル、オーラルヘルスとニュートリション、オーラルヘルスと全身疾患）ことが報告され、シンポジスト（ダイバーシティ（医師・歯科医師以外、ジェンダーバランスなど）

を考慮、海外の演者は必須、ダイバーシティを考慮して)の選出をしていきたい旨が説明された。

シンポジウムの企画を9月以降に提出することも可能であるため、もし希望があれば企画していただきたい旨、もし企画する場合にはスポンサーを付けていただきたい旨が説明された。

松尾理事(渉外委員会委員長)より、セクレタリーエレクトに松尾常任理事が就任したことから、本会としても積極的に協力していく必要がある状況になった旨が説明された。各理事に対して、スポンサーへの声かけにご協力をお願いしたい旨が依頼された。協力依頼をするにあたり、老年医学会、IAGG-AORの趣意書をまとめてわかりやすくしたものを作成する予定でいることが説明された。

## 8. その他

特記事項なし

## VI. 報告事項

### 1. 日本歯科保存学会編「根面う蝕の診療ガイドライン」(永末書店)の外部評価(理事長)資料p.13

水口理事長より、根面う蝕の診療ガイドラインの外部評価について資料を用いて説明がなされた。

評価については、ガイドライン委員会にまず確認し、その後学術委員会、遠藤理事、福島名誉会員にも確認をいただくことを予定している旨が説明された。

福島名誉会員より、ガイドライン作成過程について報告がなされ、質の高いガイドラインが作成されていることが報告された。

### 2. 急性期脳卒中患者の口腔管理に関する診療ガイドライン

戸原理事(ガイドライン委員会)より急性期脳卒中患者の口腔管理に関する診療ガイドラインについての進捗が報告された。

- ・理事および代議員を対象にしたパブコメの募集を実施

[https://www.gerodontology.jp/publishing/public\\_comment.shtml](https://www.gerodontology.jp/publishing/public_comment.shtml)

- ・パブコメへの対応 資料p.14-16

### 3. 日本補綴歯科学会「軟質リライン材によるリラインのガイドライン」の外部評価(ガイドライン委員会)

戸原理事(ガイドライン委員会)より日本補綴歯科学会「軟質リライン材によるリラインのガイドライン」の外部評価について対応が終了した旨が報告された。

### 4. 認定医の認定審査について(常任理事会・認定制度委員会)

第5回理事会議事録 参照 資料p.17-31

水口理事長より、認定医の認定審査について、理事からのコメントおよび常任理事会での議論の結果について、資料を用いて報告がされ、認定制度の問題点を理事間で共有したい旨が説明された。

柏崎理事(認定制度委員会委員長)より、専門医機構の動向を見据えながら、ブラッシュアップをしていきたいと考えている旨が説明された。

平野理事より、現状の評価方法(受験者が選択した症例のプレゼンテーションのみでの評価)においては、受験者が「老年歯科」に対する必要な知識を有しているかどうかを評価することが困難であったため、ベーシックな老年歯科の知識を有しているかを評価するペーパー試験などを導入も検討が必要ではないかとの意見があった(老年医学会専門医は受験資格として内科専門医を有していることが必要となっている)。

### 5. 摂食機能療法専門歯科医師 認定審査について(常任理事会・摂食嚥下リハビリテーション委員会)

水口理事長より、摂食機能療法専門歯科医師 認定審査について、理事からのコメントおよび常任理事会での議論の結果について、資料を用いて報告がされた。認定制度の問題点を理事間で共有したい旨が説明された。

水口理事長より、摂食機能療法専門歯科医師は、総合歯科専門医(専門医機構専門医)とは同列のものとしてではなく、より専門性の高い認定制度としていきたいと考えている旨が報告された。

吉田理事(摂食嚥下リハビリテーション委員会委員長)より、摂食機能療法専門歯科医師の認定に関しては、委員会内で規程等を検討していき、理事会にて意見をいただきたい旨が説明された。

事務局より審査ポスターの事前抄録については、委員会が確認済みの抄録をエントリーする手順とし、認定医審査ポスターと同じ運用とすること、更新ポスターについては今後検討していく予定となっていることが報告された。

## 6. 歯科衛生士研究支援 WG の設置（歯科衛生士関連委員会） 資料 p.32-35

菅野理事（歯科衛生士関連委員会委員長）より歯科衛生士研究支援 WG の設置について資料を用いて説明された。2022年9月7日にキックオフミーティングを開催し、今後の運営について協議を行った旨が説明され、今後関連各委員会に対して協力依頼をさせていただきたい旨が説明された。

水口理事長より大学に所属していない学会員も積極的に研究を実施できるような支援体制の構築の一つとして重要な内容なことでありと説明され、関連各委員会への協力依頼がなされた。

小野理事（編集委員会委員長）より、オンライン研修会の募集について随時開催と考えてよいのかと確認がなされ、事務局より開催予定日3か月前までには企画書を提出してもらいたい旨が説明された。編集委員会としても歯科衛生士関連委員会との共同研修会の企画を検討している旨が説明され、歯科衛生士関連委員会よりどのような協力必要かなどの依頼をしていただきたい旨が依頼された。

戸原理事（ガイドライン委員会委員長）より、論文を書いた経験のない歯科衛生士も多くいることから歯科衛生士教育の面でも重要なことであるとの意見があった。

## 7. 優秀課題口演賞および優秀ポスター賞の表彰式について（表彰委員会）

田中理事（表彰委員会委員長）より、学術大会における表彰式の運営方法について資料を用いて、検討状況が説明された。

- ・表彰式は、現行のとおり会員懇親会時とし、会員懇親会が開催されない場合は大会長と協議、閉会式時等に実施
- ・表彰式の準備および当日対応は表彰委員会で見直しおこない、円滑な表彰式の運営を引き続き検討

## 8. 「老年歯科医学用語辞典」編纂状況（学術用語委員会） 資料 p.36

大神理事（学術用語委員会委員長）より、「老年歯科医学用語辞典」の編纂状況について説明され、今後のスケジュールについては以下の通りを予定している旨が説明された。

### 1) 編纂スケジュール

10月中：掲載用語および解説（ほぼ最終版）を理事に提示し、最終校正終了

11月：初稿ゲラ作成

12月理事会：承認 → 入稿 → 印刷 → 2023年3月発刊

### 2) アナウンス

2023年1月に第2版（PDF版）が学会ホームページに公表される。

大神理事（学術用語委員会委員長）より、「老年歯科医学用語辞典」第3版発行の会告を10月中旬に発行される学会誌にて行う予定である旨が説明された。第3版発行の公表は会告掲載をもって解禁とすることを確認した。また、2022年度の学会費を完納した学会員に対して無償配布する旨の提案があり、承認された。

## 9. UMIN-CTR（大学病院医療情報ネットワークセンター臨床試験登録システム）への対応（倫理審査委員会）

糸田理事（倫理審査委員会委員長）より、老年歯科医学会の倫理倫理審査委員会において倫理の承認を得た研究は1年に1度の経過報告を実施する事となっているが、UMIN-CTRに対して、承認を行った倫理審査委員会から報告する必要があるため、UMIN登録する研究代表者には6ヶ月に1度の報告とする旨が説明された。

- ・本会倫理審査委員会が承認した調査または研究のうち UMIN-CTR されたものは、UMIN を通じて約 6 か月毎に進捗状況の確認を行う
- ・倫理審査委員長は、研究代表者より提出される経過報告書または結果報告書に基づき、進捗状況の確認を実施する。（UMIN-CTR を通じて要回答）
- ・これにあたり、既存の経過報告書および結果報告書を必要に応じて見直しを予定している

## 10. 令和4年度老健事業 進捗状況（渡邊理事）

- ・特任委員会（老健事業）のメンバー 資料 p.37

上田理事（総務担当）より特任委員会（老健事業）メンバーが理事長より指名があった旨報告があった。

- ・「介護保険施設における歯科専門職による口腔管理に関する調査研究事業」

渡邊理事より上記内容の老健事業が採択されたこととその進捗状況について以下の通り説明された。

事業内容

### ①介護保険施設における口腔衛生等の管理に関する実態調査

→義歯使用の支援と食形態、体重の維持という点について、訪問診療をしている先生にレポートを提出していただく予定（理事に協力依頼予定）

②新型コロナウイルス感染症による口腔関連サービスの提供への影響に関する調査

→東京医科歯科大学の中川量晴先生が中心に、全国 2000 施設を対象として郵送調査を実施する予定

**11. プロジェクト医研究「高齢者の医療・地域連携に貢献する高齢者対応型病院歯科の普及に向けた調査」  
進捗状況（病院歯科委員会）**

大野理事（病院歯科委員会委員長）より、3つのプロジェクト研究の進捗状況について報告された。

- ①病院歯科委員会委員所属の多機関共同研究→データ採取中、今年度中に解析終了予定（来年度論文化）
- ②常勤歯科医師の有無による二施設間比較研究→データ採取中、今年度中に解析終了予定（来年度論文化）
- ③歯科がある病院の院長に対するアンケート調査→データ採取・解析終了

**12. 2021年度 全国版支部長会活動報告（支部運営委員会）資料 p.38-42**

平野理事（支部運営委員会委員長）より、全国版支部長会活動報告について、資料を用いて説明された。活動報告については、老年歯科医学に掲載する予定でいることが報告された。

上田常任理事（総務担当理事）より、老年歯科医学に委員会報告をする際には、理事長および担当役員の名前を入れるのが通例となっているので、ご検討いただきたい旨が提案され、承認された。

平野理事より、多くの支部長が、学会参加を楽しみにしていることから、その先生方へのメリットとなる情報発信などを積極的にしてもらいたい旨が依頼された。

水口理事長より、ピンバッジなど（学会のロゴなど）を作成して支部長・副支部長につけていただき各歯科医師会などに参加してもらう（そのピンバッジから学会の話題が広がることなどを期待）などを含めて今後議論を重ねていきたい旨が報告された。

**13. 岡山支部長の交代（支部運営委員会）**

平野理事（支部運営委員会委員長）より、岡山支部長の交代について理事長指名がなされた旨報告された。

現任）江草正彦 先生（岡山大学）

後任）角谷真一 先生（岡山県開業／かどや歯科医院）

岡山大学歯学部 臨床教授

岡山県歯科医師会公衆衛生部 参事

**14. 歯内療法領域に使用するホルムアルデヒド製剤の使用撤廃に向けた提言書について（理事長）**

資料 p.43-49

水口理事長より、歯内療法領域に使用するホルムアルデヒド製剤の使用撤廃に向けた提言書について資料を用いて説明された。

**15. 4学会によるフッ素配合歯磨剤の推奨される利用方法に関する声明について（理事長）資料 p.50-52**

水口理事長より、4学会によるフッ素配合歯磨剤の推奨される利用方法に関する声明について資料を用いて説明された。

**16. クインテッセンス出版「歯科衛生士」（チェアサイド Q&A）への協力について（理事長）**

資料 p.53-58

水口理事長より、クインテッセンス出版「歯科衛生士」（チェアサイド Q&A）への協力について資料を用いて説明された。執筆担当者推薦に関する案は、学術委員会を所掌委員会とし、池邊常任理事（学術委員会委員長）に作成いただく旨が依頼され、承認された。

執筆協力については理事会にて承認され、事務局より、クインテッセンス出版への回答を行うことが確認された。その際に、企画協力費について原稿料とは別に 12000 円として回答することが承認された。

**17. 学会キャラクターの今後の活用／新ポーズの希望、3D媒体の作成 他**

伊藤広報委員会幹事より、学会キャラクターの今後の活用について（座長席に設置するぬいぐるみやボールペンなど）提案がなされ、財務委員会で予算などを検討いただきたい旨が説明され、承認された

特任委員会や歯科衛生士委員会より依頼があり、新ポーズについても検討をしている旨が説明され、その他の委員会においてもポージングなどの案があれば提案いただきたい旨が説明された。

水口理事長より、様々な委員会においても、学会キャラクターを積極的に採用してもらいたい旨が報告された。



## 18. その他

松尾理事（渉外委員会委員長）より、課題口演の質疑形式が非常に厳しい（質問ではなく詰問のようにになっている）印象を受けたので、今後課題口演の応募者増を期待する意味でも、質問形式などを再検討してもらいたい旨が提案され、池邊常任理事（学術委員会委員長）より、今後学術委員会にて検討していくことが説明された。

羽村副理事長、池邊常任理事（学術委員会委員長）より、質問者のコントロールが適切にできるよう、座長のガイダンスを検討しておくことが重要であると提案された。

田中理事（表彰委員会委員長）より、指定質問者には、私見を取り除いて質問するように依頼しているが、今回のような意見があることから、今後再度委員会にて検討していきたい旨が説明された。

### ディスカッションタイム

小野理事（第33回学術大会大会長）より、学術大会における抄録確認について、大会校に多くの負担を強いている状況であることが報告され、学会抄録の適切な作成方法に関する研修会などの企画が（演題登録者は必ず受講することとする）提案された。

池邊理事（学術委員会委員長）より、学術委員会にて抄録査読の実情（徹底的に査読をしてしまうとリジェクトする必要があるものが多い）ことが説明された。

小野常任理事より倫理審査の要否に関して、明確にするべき（実例を上げてQ&Aのように）であることが提案された。編集委員会から倫理審査委員会へ、現在査読中の事後抄録に問題があるものを共有する旨が報告された。

服部理事（倫理委員会委員長）より、学会ホームページに学会発表に際しての倫理審査の要否に関する指針を載せてはいるものの、一部会員において研究デザインなどに関する基本的理解が不足している可能性もあることが説明された。

糸田理事（倫理審査委員会）より、研究デザインが明確になっていないものや抄録の記載方法に不備があるものが目立ったのは事実であり、服部理事と協力して、新たな指針を出せるように検討する旨が報告された。

事務局より演題登録が約3ヶ月後に開始となることから、抄録に関する修正を実施する場合にはいいタイミングであることが報告された。

菊谷理事より、開業医が発表しやすい環境を作り上げていくことも、今後の学会の発展には必要であり、認定制度に関しても、どの程度レベルを認定医として求めるのかを今後検討していく必要があるとの提案がなされた。

上田理事（総務担当）より、認定医・専門医の審査方式が他学会と比較して独特であり、現行の審査方式を決定する際の経緯を考えた上で、機構専門医への移行のタイミングが変更する良いタイミングとも考えられるため、今後議論が必要なのではないかとの意見があった。

水口理事長より、機構専門医となるタイミングで認定方法の変更（認定医がプレゼンテーション、専門医がペーパー試験という方式を入れ替えるなど）を実施していく必要があることが説明された。

## VII. その他

### 1. 会員状況 資料 p.59

→上田理事（総務担当）より、会員状況について資料を用いて説明された。

### 2. 月次収支報告 資料 p.60-62

→山崎理事（財務担当）問題なく、運営できていることが報告された。

### 3. 今後の会議予定 資料 p.63-65

→上田理事（総務担当）より、12月の理事会は対面を予定（懇親会については10月の常任理事会にて開催可否を決定）していることが報告された。

事務局より、次回の常任理事会は10月31日に予定しているため、常任理事会へ審議を依頼したい内容がある場合には、事務局まで早めに連絡いただくよう依頼があった。必要に応じて、一部陪席をお願いすることもあること説明があった。

第34回学術大会では、学会会場周辺の会場にて常任理事会、理事会を実施する予定であることが報告された。

### 4. 後援状況

<https://www.gerodontology.jp/event/cosponsored/>

名誉会員から

山根源之、山根瞳、櫻井薫、各名誉会員より、活発な議論への御礼とともに、激励のお言葉を頂いた。

## VIII. 閉会の辞（羽村副理事長）

羽村副理事長より、円滑な会議進行への御礼と、Web では実現が難しい対面での活発な議論が12月の理事会にて実現できることを祈念して、閉会の辞が述べられた。

補足：学術大会開催日程（単独開催の場合）を再確認した。

### 2021年度第11回理事会 議事録抜粋

<学術大会の会期について> \*合同大会はこの限りではない

水口理事長より、今後は以下のように学術大会の開催を行うことが説明され、承認された。

1日目 常任理事会・理事会

認定医審査P・摂食機能療法専門歯科医師審査P・大会長がスケジュールした大会プログラム

2日目 大会長がスケジュールした大会プログラム・定時社員総会（表彰式含む）・会員懇親会

3日目 大会長がスケジュールした大会プログラム・閉会式